

2026年7月5日（日）主日朝礼拝説教

『イエスとは何者か』 井上隆晶牧師

マタイによる福音書 16 章 13～17 節、マルコによる福音書 16 章 1～8 節

①【復活って何曜日の出来事？】

先日、聖書日課でマルコの福音書の復活の箇所を読みました。復活祭の時に読んでいるのに、気づかなかったことがありました。「安息日が終わると」（16：1）と書かれています。安息日とは、ユダヤ人の暦（旧約聖書の暦）では、第七の日であり、一週間の終わりの日のことです。だから復活の出来事というのは、ユダヤ人からすれば月曜日に起こったのです。聖書は「週の初めの日」（マルコ 16：2）とも書いています。これはまた第七の日の次の日なので、第八の日とも呼ばれています。（ヨハネ 20：26）私はふと思ったのです。金曜日に十字架にかかって、なぜキリストは復活するのを三日待たれたんだろう。次の日の土曜日（安息日）にさっさと復活しても良かったのではないか。どう見ても、古い安息日を終わらせ、新しい安息日を用意したかったとしか考えられないのです。初期のキリスト教徒たちは、古い安息日（第七の日）を守り、同時に新しい安息日（第八の日）、この日はまだ仕事の日でしたが、その両方を守っていました。やがて古い安息日を守るのをやめ、新しい安息日だけを守るようになりました。私たちが普段、守っている新しい安息日（日曜日）はキリストが造られた新しい安息日、死の無い日なのです。旧約の、つまりこの世の延長線上の日ではなく、上から来た日、まったく新しく神の国の一日なのです。私たちは神の子なのです。

②【なぜ、疑問で終わっているのか？】

マルコの福音書の最後は、不思議な終わり方をしています。天使は「あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。…そこでお目にかかれる。」（マルコ 16：7）と婦人たちに言いました。婦人たちは恐ろしかったので震えあがり、正気を失っていたので墓から逃げ去り、誰にも何も言いませんでした。それで終わりです。マルコは答えを出していません。なぜなのでしょう。こんな終わり方をしたら誰が復活を信じるでしょう？マルコは復活を信じさせようとして書いたのではありません。復活を信じることは、復活したキリストを見た最初の弟子たちでさえも困難だったのです。エマオへの旅人を思い出してください。説教とパン裂きを通してでなければ彼らの目は開きませんでした。マルコはどのように復活したかを人々に知らせたかったのではなく、「この復活したお方はどなたなのか」を知ってもらいたかったのです。イエス様が誰なのかを知る方が重要なのだと聖書は言っているのです。だからもう一度、福音書の最初に帰り、読んでごらん下さいと言うのです。

③【下からの答え、上からの答え】

イエス様がフィリポ・カイサリア地方に行った時、弟子たちに「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」（マタイ 16 : 13）と尋ねられました。フィリポ・カイサリアは海岸沿いの町で、ヘロデ大王がローマ皇帝のために建てた神殿がありました。カイサリアというのはカエサル（皇帝）から来た言葉で皇帝の町と言う意味です。そのほかにもギリシャの神々を祭る神殿もあったそうです。「人の子」というのはイエス様自身のことであり、「人間の子」という意味です。皇帝を礼拝する神殿のある町で、この質問をされたのは意味があります。あなたは誰を礼拝するかという質問です。

弟子たちは『「洗礼者ヨハネだ」と言う人も、「エリヤだ」と言う人もいます。ほかに「エレミヤだ」とか、「預言者の一人だ」と言う人もいます。』と答えます。するとイエス様は「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか」（16 : 15）と尋ねると、ペトロが「あなたはメシア、生ける神の子です。」（16 : 16）と答えました。「生ける神の子」というのは、単なる人間ではなく、この世に現れた生きた神様の子供という意味です。すると、イエス様は「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。」（16 : 17）とおっしゃいました。

なぜシモン・バルヨナと言われたのでしょうか。これはキリストと出会う前の肉なる彼の名前です。ペトロというのはイエス様が名付けた「信仰者となった彼の名前」で、洗礼名みたいなものです。旧約でもヤコブがイスラエルと神によって改名されたのと同じです。カトリックや正教会では本名ではなく、洗礼名でその人を呼んだりします。聖餐の時、信者さんが跪くと、「神の子ワシリー誰々、キリストの聖体、聖血を授く」と呼びます。シモン・バルヨナとは限界のある、地に属する人の名前です。すなわち「人間」を現しています。イエス様は「あなたにこの告白をさせたのは天の神なのである」と言われたのです。人間の知恵、力ではこのような告白は決してできない、という意味です。ここまで見てきて、イエス・キリストというお方には二つの告白があるというのが分かると思います。この世の人々はイエス様の事を「洗礼者ヨハネ、エリヤ、エレミヤ、預言者」と呼びましたが、これは下からの告白です。人間ができる告白です。しかし「あなたはメシア、生ける神の子です」という告白は、上からの告白です。これを「啓示」と呼びます。

●統一協会の教えは、すべて下からのものです。万物を観察すると、すべてが雄と雌、プラスとマイナス、陽と陰というように性相が分かれるから、神様も男性格と女性格の中和的存在だという結論を出しました。このような答えの出し方を帰納法といいます。この世に存在する馬を全部集めて観察し、「馬とは～である」という結論を出すのです。神様は男性と女性の中の中和なのですか？神はこの世の被造物を超越しているのです。この世の物で限定したら偶像になるでしょう。カルト宗教、イスラム教、ユダヤ教のイエス様に対する結論はすべて下からのもので

す。人間イエス、偉大な預言者の一人です。良寛さんや、親鸞さんと並ぶ、偉大な宗教者、教育者、解放者の一人です。それが下からのイエスです。

しかし教会の告白は上からの啓示によるものです。神によって上から一方的に教えられたものです。パウロの言葉を借りるなら「わたしが告げ知らせた福音は、人によるものではありません。」(ガラテヤ 1:11) それは神から出たものです。それは天と地の隔たりがあります。イエス様は「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる」(16:18)と言われました。この岩とはペトロですが、ペトロを代表とする使徒団であり、彼らの信仰告白の上に教会を建てるという意味です。キリストを神と告白する者たちの上に教会は建つのであって、キリストを神と告白しない者の上には教会は建たないのです。

この上から来られたキリストと私たちは一体なのです。神であり人となった方、不滅であり、不死なる方と一体なのです。そう頭で分かっている不安になります。なぜでしょうか。

●先週の木曜日のことです。朝の祈りが終わって妻と家に帰る途中、横断歩道で立ち往生していたおばあさんに会いました。あるご婦人がお助けして、横断歩道は渡り終えたのですが、そこから動けなくなったのです。そこで私がおんぶをして三人で支えておばあさんの家まで行く事になりました。ところがおばあさん、おんぶが怖くてのけ反り、爪が伸びた指で肩をつかむのです。それがまた痛いのです。「怖い、怖い」と言って、手で別なところを掴み、腕を首に回さずに、お尻を突き出すので体重が後ろにかかり、重いのです。家まで行くのに汗びっしょりになりました。以前、大阪 YWCA で水難救助の方法を聞きました。誰かが溺れている時、すぐに飛び込んで助けてはいけないというのです。すぐに飛び込むと、恐怖のあまり救助者にしがみついて、二人共溺れてしまうからです。しばらく様子を見て、溺れている人の力が弱くなったら助けるそうです。力が入っていると、助けたくても助けられないということなのです。力が入るとは信じていないことであり、力を抜くということが信じることなのです。

このおばあさんの姿は実は、私かもしれないと思いました。

禅に『柄のとれた壊れたひしゃく、底の抜けた桶』という言葉があります。ちゃんと柄もつき、水がこぼれないひしゃくや、しっかりと底がある桶のような人間は、ろくな者がいないという意味です。日本語では「底が知れる」と言えば「大したことがない」という意味になります。この都島教会が貧しく信徒も二人だけだった時、私は「このままだったら教会は潰れるだろう。周りの人に気を遣い、自分を殺して生きたところで悔いが残るだけだ。どうせ潰れるなら、自分がやりたいことをやって潰れてしまおう。」と思いました。私は底が抜けたのだと思います。人に良く思われたいという思いを捨てたのです。力が抜けて、自分のしたいことを伸び伸びと楽しんだのです。そうしたらキリストが背負ってくださったのです。いいんじゃない、

ないですか立派な人にならなくても。出来ることを一生懸命し、キリストを喜んで信頼しきって伝道しようと思います。